藍文化に触れる

「ジャパン・ブルー」という言葉を聞いたことはありますか？

東京２０２０オリンピックのロゴマークの色に使用されたことでも注目を集めた「ジャパン・ブルー」これは、藍染めの青である「藍色」のことを指します。明治初期、日本の情景は藍染めの青の色があふれていました。その様子を、来日した英国人科学者のアトキンソンが、「ジャパン・ブルー」と表現したのが由来だと言われています。

このように、日本を象徴する色である藍色。この藍色は、タデ科の植物タデアイの乾燥葉を発酵させてつくる染料「蓼（すくも）」によって出せる色で、とくに徳島県（阿波国）でつくられる蓼は阿波藍と呼ばれ、その品質の高さから、現在も全国的に知られています。

阿波藍の歴史

とくしま藍の日（7月24日）が条例で定められるほど、藍は徳島の伝統文化であり、昔から徳島の繁栄を支えてきました。

阿波国（現在の徳島県）における藍の栽培の始まりはいつの頃かは不明ですが、室町時代の文安２（１４４５）年には、藍の取引を示す記録が残されています。このとき、阿波以外の地域から藍が運ばれた記録はなく、すでに藍は阿波の特産品となっていたのではないかと考えられます。

藍の栽培に適した土地柄

阿波藍が質・量ともに全国一だったのは、吉野川流域の気候風土が藍の栽培に適していたからだといえます。

徳島県には東西に暴れ川として知られる吉野川が流れています。昭和初期に連続堤防ができるまで、たびたび吉野川は氾濫による甚大な被害をもたらしました。

しかしその反面、豊富な伏流水に恵まれ、洪水によって上流から肥沃な土壌がもたらされる吉野川流域は、連作が難しいタデアイを毎年栽培できる適地だったのです。

藍の栽培面積ランキング（令和元年度）

１位：徳島県　16.6 ヘクタール

２位：北海道　４ヘクタール

３位：兵庫県　1.4 ヘクタール

令和元年度においても、徳島県の藍の栽培面積は、全国の約 69% を占めており、１位を誇っています。

【参考】徳島県ホームページ.藍の統計概要
https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/sangyo/nogyo/5041064/
（参照 2023-06-25）

天然由来の藍染めのやり方

布に模様をつける

布を縛ったり、縫ったりしてから染めると、模様をつけることができます。

藍染め液を作る

甕の中に蓼と灰汁などを入れて１週間ほど発酵させ、藍染め液を作る。

染料のもとを作る

藍の生葉を乾燥させてから発酵させ、蓼（すくも）という染料のもとを作る。

洗って干して完成

好きな色になったら、水洗いして干して完成です。

布を染める

布を藍染め液に浸す。空気に触れると青くなり、繰り返し行うことで深い藍色になります。

いろいろな染め方があります

現在では化学薬品を使って染める方法もあります。
また、生の藍葉でも染めることができ、葉をもんだ汁で染めたり、煮出した汁で染める方法もあります。

藍の集散地 美馬

江戸時代に徳島藩が阿波藍の生産を奨励すると、吉野川が作り出す肥沃な土地を生かした藍の一大生産地として、また吉野川の舟運を利用した藍の集散地として大いに栄えました。

阿波の藍師が手塩にかけてつくり上げた藍染料は、徳島藩から販売権を容認された藍商人を通して、大阪・名古屋・江戸をはじめとする全国の藍市場に供給されました。それにあわせ、阿波の藍商人の活躍もまた、全国規模で展開されるようになりました。藍商人たちは富を得るだけでなく、全国各地との文化交流の担い手となりました。

藍の流通を担った脇町には、藍豪商が築いた「うだつの町並み」が現存しています。本来防火のために作られた「うだつ」は、富を競うかのように本瓦葺の重厚な装飾がなされ、そのてっぺんでは鬼面の瓦が睨みをきかせています。格子づくりや蔀戸（しとみど）、虫籠窓（むしこまど）などの意匠が美しいうだつの上がった町並みや、敷地内に船着き場までつくられた豪商の屋敷をみると、藍の集散地として栄えた当時の栄華を誇る暮らしぶりがうかがわれます。

藍商佐直（さなお） 吉田家住宅

寛政 4（1792）年に創業した藍商、吉田直兵衛の家。屋号を「佐直」と称し、脇町でも一、二を競った豪商です。

実はスゴイ！ 藍染めの効果

抗菌作用があるため…

- 虫食いを防ぐ
- 消臭効果がある
- 生地が丈夫になる
- 肌に優しい

【参考】世嘉良宏斗ほか.琉球藍染めの抗菌成分.沖縄県工業技術センター研究報告 第21号 平成30年度.6p

さて、今月はとくしま藍推進月間、そして7月23日（日）にＭＩＭＡＩｎｄｉｇｏＤａｙを控えているということで、徳島の藍「阿波藍」について取り上げてみました。

藍に対する理解を深めて、美馬の藍文化をみんなで盛り上げましょう！

引用・参考文献一覧

山崎和樹ほか.つくってあそぼう [26] 藍染の絵本.社団法人農山漁村文化協会.2008.5-15p

藍のふるさと阿波魅力発信協議会.「藍のふるさと阿波」～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～.文化庁.日本遺産ポータルサイト
https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story081/（参照 2023-06-20）

とくしま藍推進月間中、美馬市の職員は藍染めの缶バッジを付けています→

MIMA Indigo Day

7月 23 日(日) 開催

午前９時 40 分から、オープニングセレモニーを地域交流センターミライズで行います。
オープニングセレモニー後に、ミライズやうだつの町並みなどで様々なイベントを開催。
ミライズ西側広場で行われる藍マルシェは、ハンドメイド雑貨やフードなどが盛りだくさん!
また「藍色の製品」を身につけて、イベントや市内協力店舗に行くと、様々な特典があります♪

詳しくはこちら

作品に添える大切な方へのメッセージを綴る、藍染め体験参加者

今年も あいであいを伝えよう

地域おこし協力隊が、今年も地域の方々に染めていただいた作品を展示します。今年はマスクを染めます。
美馬市の中学生を中心にたくさんの素敵な作品が染め上がっています。どんな展示になるのか、お楽しみに!

展示場所 / 地域交流センターミライズ 縁側のハコ　　展示期間 / 7月 22 日～7月 31 日

180 枚のマスクを、藍染め体験を行いながら参加者が染めていきます。ひとつひとつの作品に、大切な方へのメッセージを添えて展示する予定です。

緑の葉っぱで青く染まるのはなぜ?

藍染めに使うのはタデアイという植物の葉。（５ページ写真参照）タデアイの葉には酵素と、インディカンという青色のもとになる成分が含まれていて、この２つが反応し、空気に触れて酸化することで青くなります。

地域おこし通信

もちろん私たち地域おこし協力隊も MIMA Indigo Day 参加します!

7/23 青木家では生葉染めの体験会を行います!青木家住宅へも足を伸ばしていただけますと嬉しいです。

井上 佳奈

子ども達の染めを見るといつも新鮮でキラキラしていて驚きがあって「すごいなぁ」と思います。この素敵さを忘れず、と思う日々です。

坂口 奈央

畑の除草作業を行う地域おこし協力隊の井上さん

MIMA Indigo Day あいのはっぱで染める会

畑に入り収穫した藍の葉で染色してみませんか?
帽子・水筒をお持ちのうえ、畑に入ることができる装いでお越しください。（要予約）

日時 / 7月 23 日（日）
①8:00～9:00 ②9:30～10:30

場所 / 旧青木家住宅
（美馬町字宮前 225）

料金 / ¥500（染色物代を含む）

予約・問い合わせ先 /
✉ aoitedome@gmail.com
（地域おこし協力隊）

令和５年の藍作が始まりました

試行錯誤しながらの３回目の藍作です。器具や鶏糞肥料、草取り、畑起こしなどは、いつも地域の方に手伝ってもらっています。ありがとうございます。この広報が出る頃には立派なタデアイに成長しているはずです。青木家住宅と一緒にぜひ覗いて行ってください!

うだつを上げたい「うだつあげ隊」

今年はイベントを盛り上げるため、地域の高校生を中心にボランティアを募りました。その名も「うだつあげ隊」。町並みを飾るフラッグ、クイズラリーの景品染色、当日の運営サポートなど。元気に活動できるよう頑張ります!